

H23.12.16

資料-2

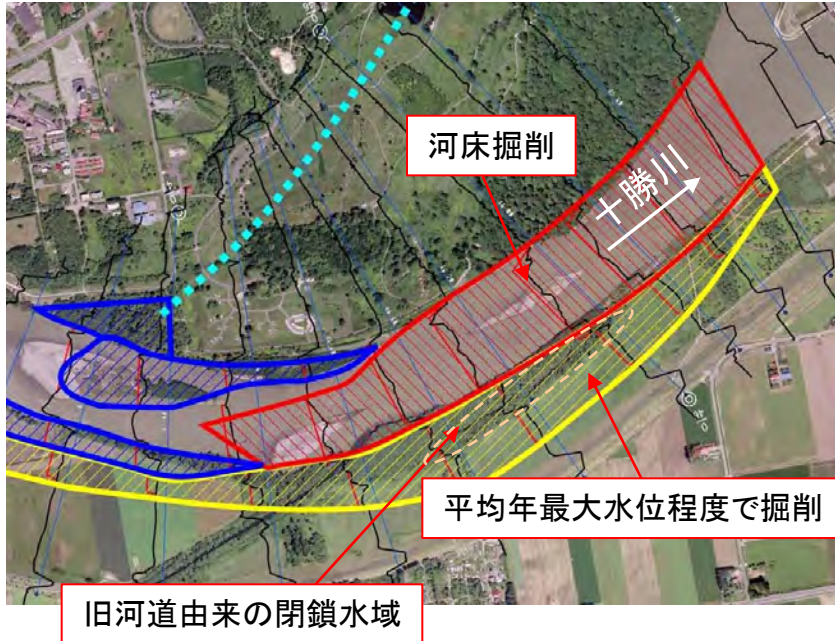
十勝川中流部川づくりWS(第9回)資料

平成23年12月16日

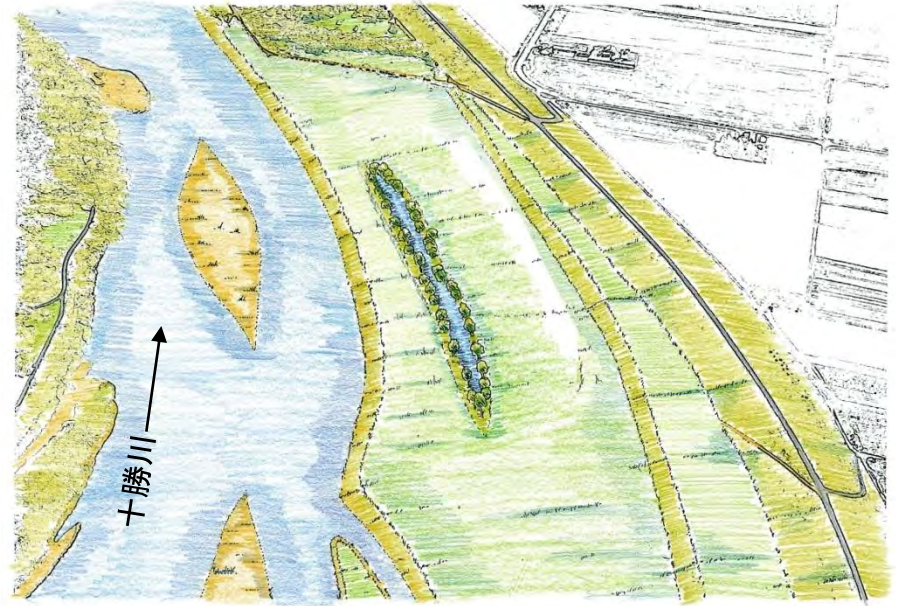
北海道開発局 帯広開発建設部

十勝中央大橋下流(途別川合流点下流)の川づくり案

第1案(第8回WS提示案)



第1案イメージパース



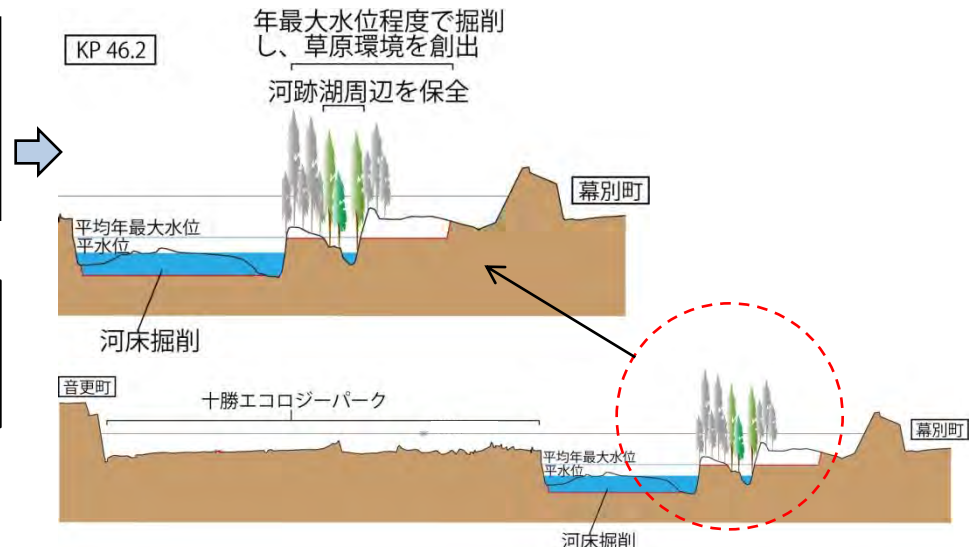
○旧河道由来の閉鎖水域を保全する案

右岸側の平均年最大水位程度で掘削するにあたり、掘削に影響しない、閉鎖水域とその周辺の樹林を保全する。

掘削した高水敷は草原環境とする。

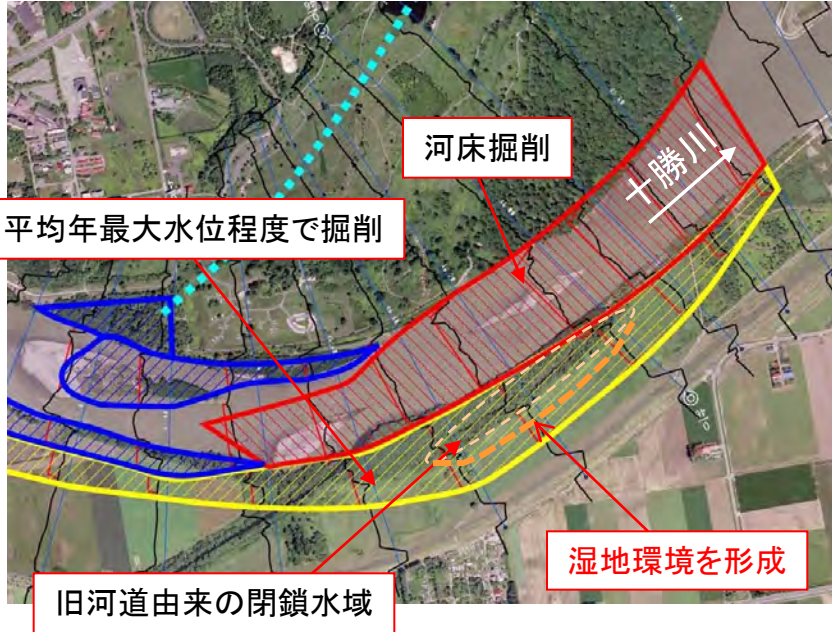
特徴

・水域については、概ね、現況の環境が保全される。

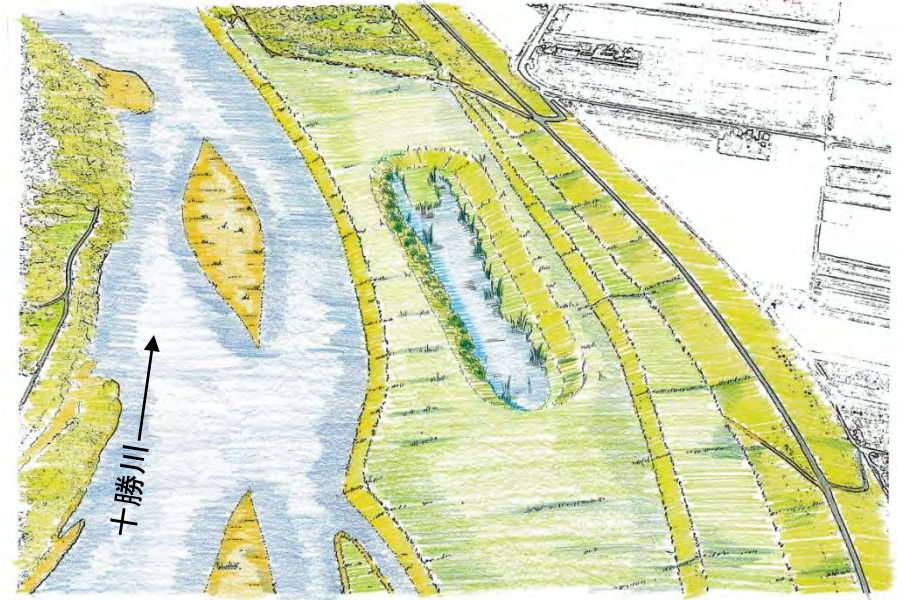


十勝中央大橋下流(途別川合流点下流)の川づくり案

第2案(第8回WS提示案)



第2案イメージパース

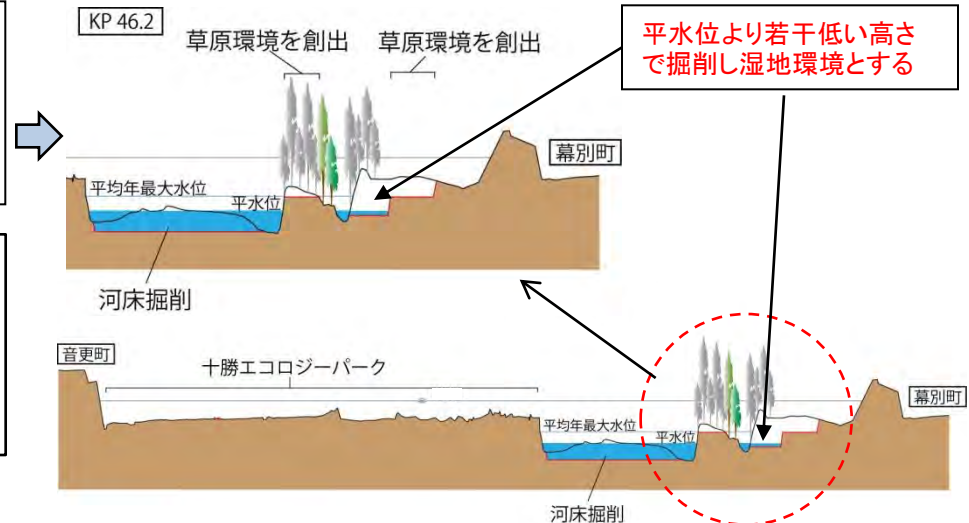


○現況の閉鎖水域を掘削して湿地環境を広げる案

右岸側を平均年最大水位程度で掘削。
さらに、現況の水域より堤防側を平水位より低い高さで一部掘削し、湿地環境を広げる。

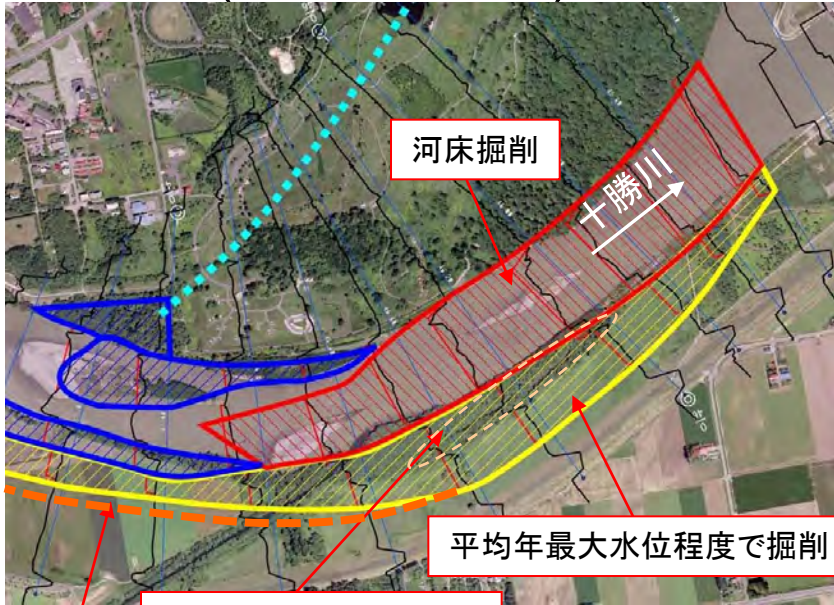
特徴

- ・浅い水深の湿地が出現することで、タンチョウやサギ類、シギ類の生息が期待できる
- ・開放水面となることでトンボ類の生息環境が増加する
- ・現況の水域の環境が大きく変わる



十勝中央大橋下流(途別川合流点下流)の川づくり案

第3案(今回提示案)



旧河道由来の閉鎖水域

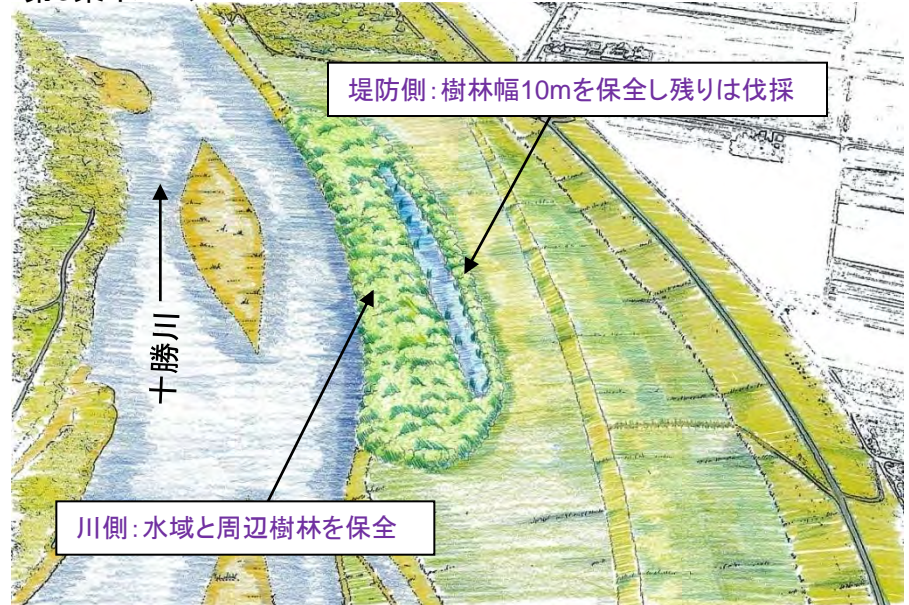
掘削幅を増す必要がある

○旧河道由来の閉鎖水域と周辺樹林を極力保全する案

現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木については、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全する。

その他の部分について、平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。

第3案イメージパース

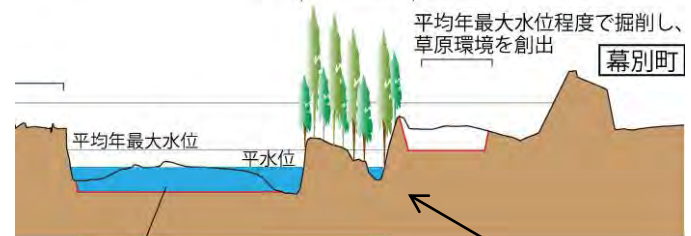


KP 46.2

川側河畔林は全て保全
堤防側は約10m幅で保全

平均年最大水位程度で掘削し、
草原環境を創出

幕別町

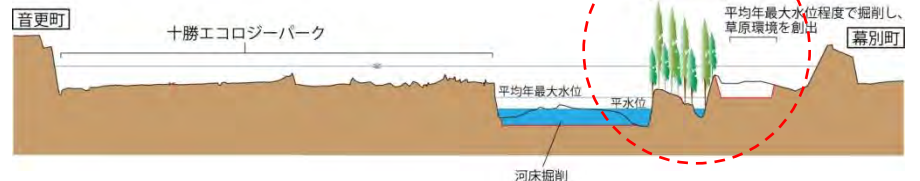


KP 46.2

川側河畔林は全て保全
堤防側は約10m幅で保全

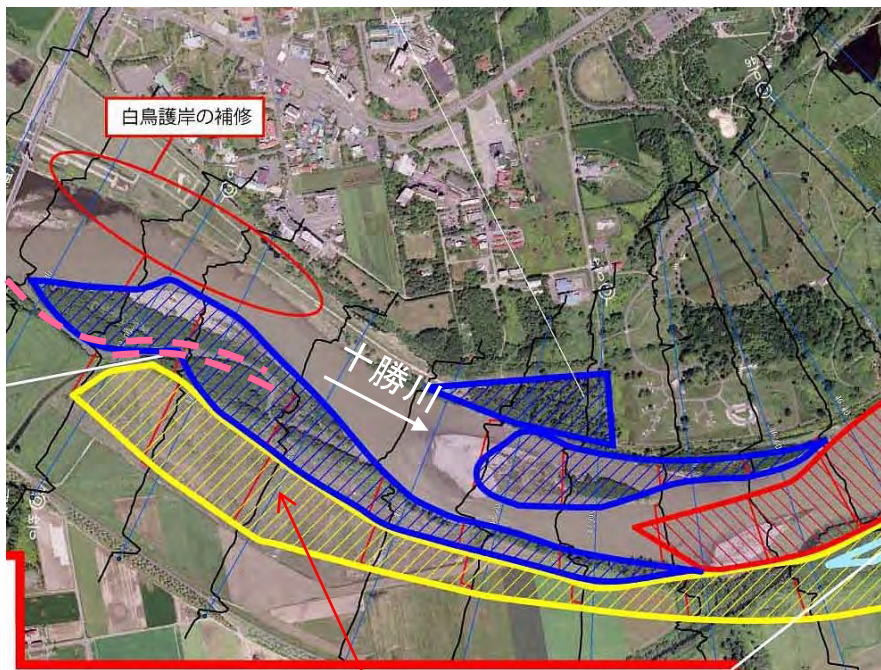
平均年最大水位程度で掘削し、
草原環境を創出

幕別町

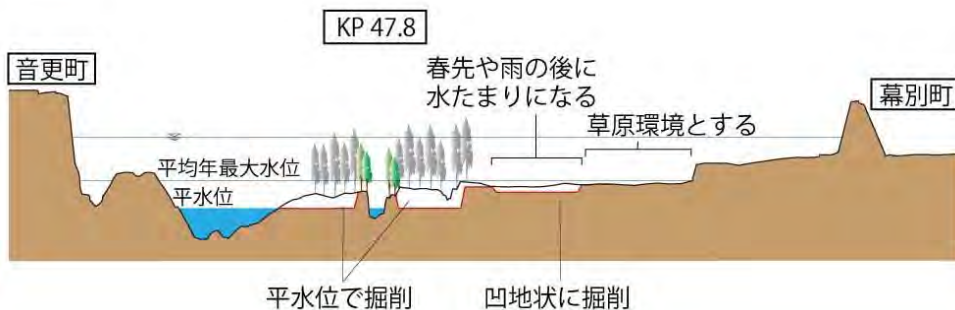
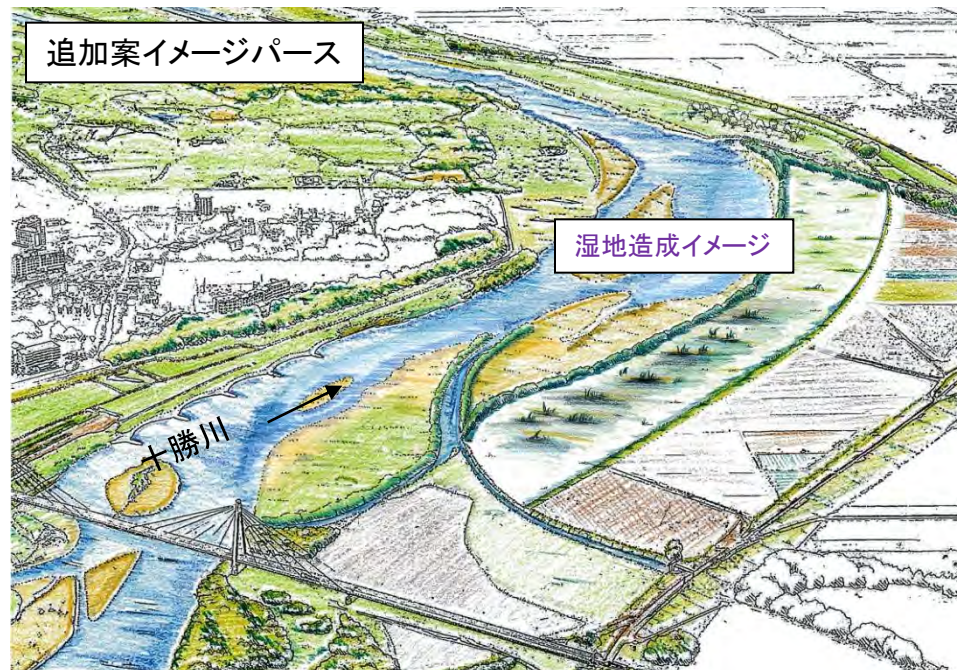


十勝中央大橋下流(メン川合流点下流)の川づくり案

追加案



草原及び湿地
環境とする



○第8回WSで、「途別川合流点下流の水域を保全」するほか、「さらに湿地環境の創出を」という意見がだされた。
そこで、整備可能なスペースを考慮し、多様な環境を創出する試みとして、春先や雨の後には水たまりになるような閉鎖性の湿地環境を創出する案。

問題点

- ・湿地環境というと鳥類が集まるイメージがある中で、周辺地域からは鳥類による農業被害等を懸念する声があり、地元の理解を得ることは難航が想定される。

川づくり案について、市民利活用の面からの意見

第8回WSまでに合意が得られた川づくり案

音更川合流点上流

川づくり案 左岸側の樹林伐採(幅10mで保全)掘削なし

論点 —

音更川合流点下流①

川づくり案 左岸側の樹林を伐採(ケショウヤナギ等の大型樹林及び幅10mを保全)し、右岸側を掘削

論点 —

相生中島下流

川づくり案 中洲の一部及び左岸側を掘削

論点 —

十勝川温泉下流

川づくり案 左岸の樹林を伐採・掘削し、浅場環境創出

論点 —

音更川合流点下流②

川づくり案 中洲の一部及び右岸側を掘削

論点 —

相生中島上流

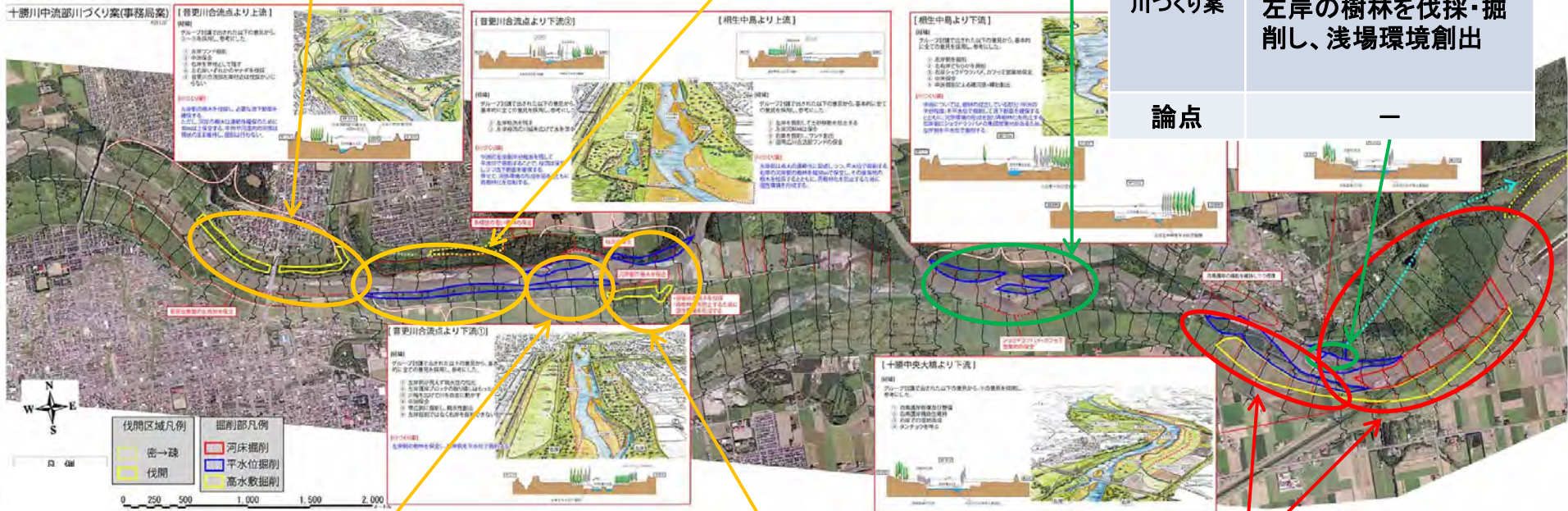
川づくり案 左岸側は樹木の連続性に配慮しつつ掘削
右岸の河岸側の樹木を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採

論点 —

十勝中央大橋下流

川づくり案 右岸樹林を伐採し、掘削
左岸下流を疎林化

論点 右岸の既存湿地の保全
関係機関・団体等との要調整

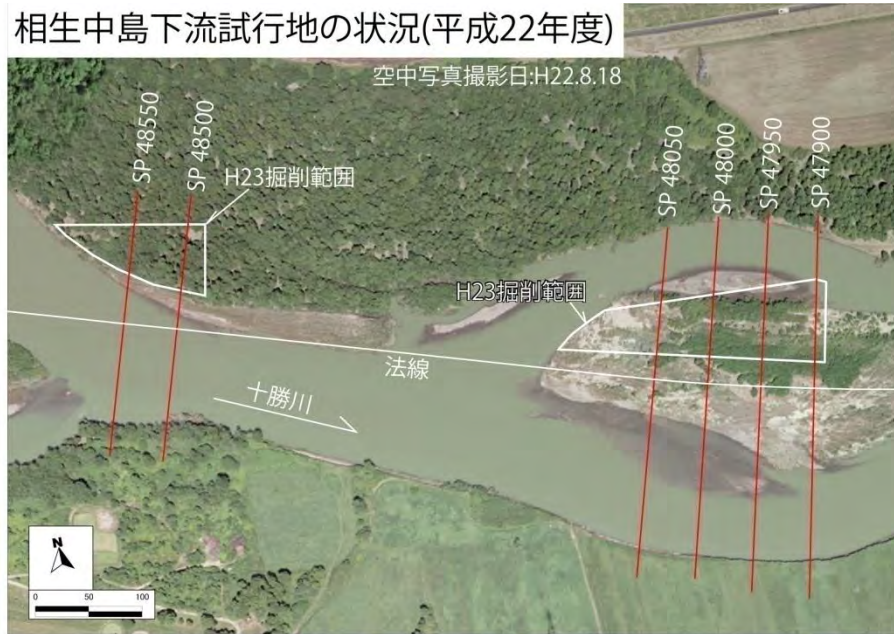


試行地の現状報告

試行地掘削後の状況(相生中島下流)

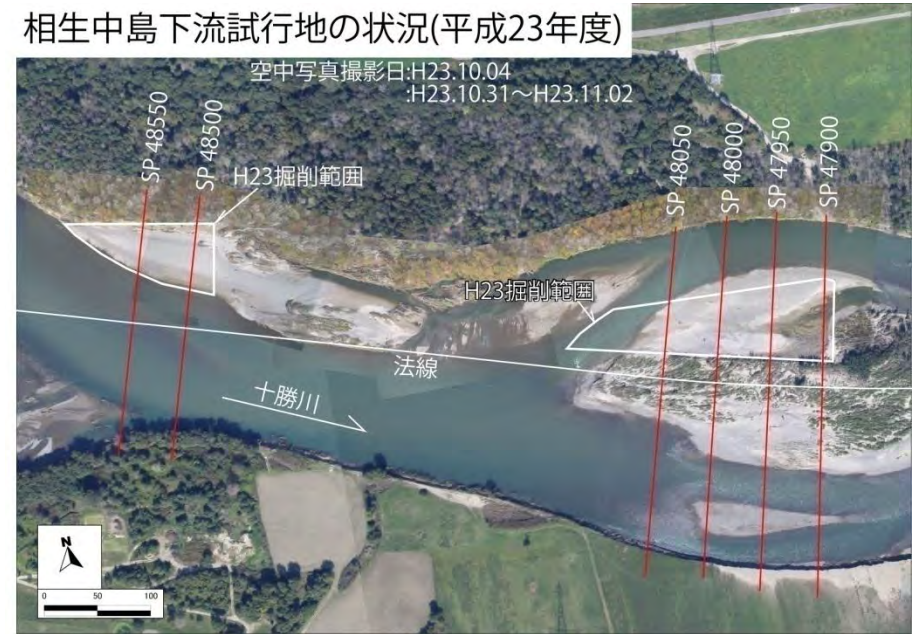
施工前(H22撮影)

相生中島下流試行地の状況(平成22年度)



施工後・出水後(H23.11.02撮影)

相生中島下流試行地の状況(平成23年度)



目的:・河岸や樹林化した中洲を平水位等で高さを変えて掘削し、その後の出水等による環境変化(河床の状況や植生状況等)をモニタリングする。

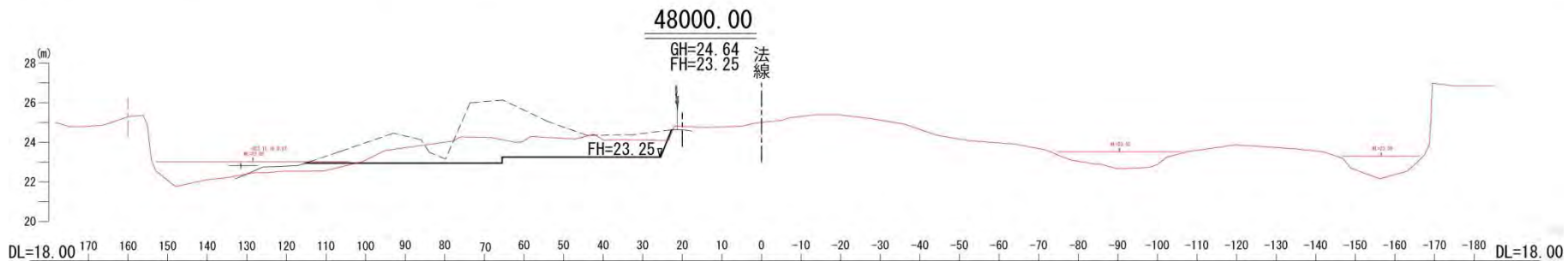
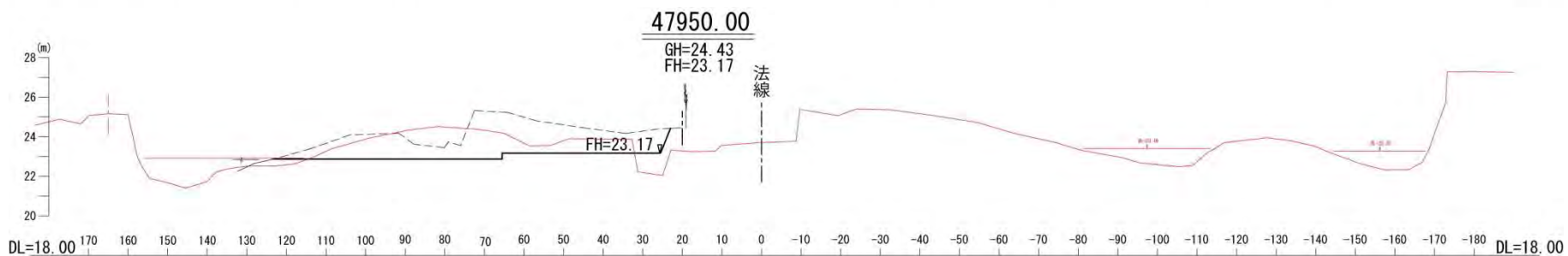
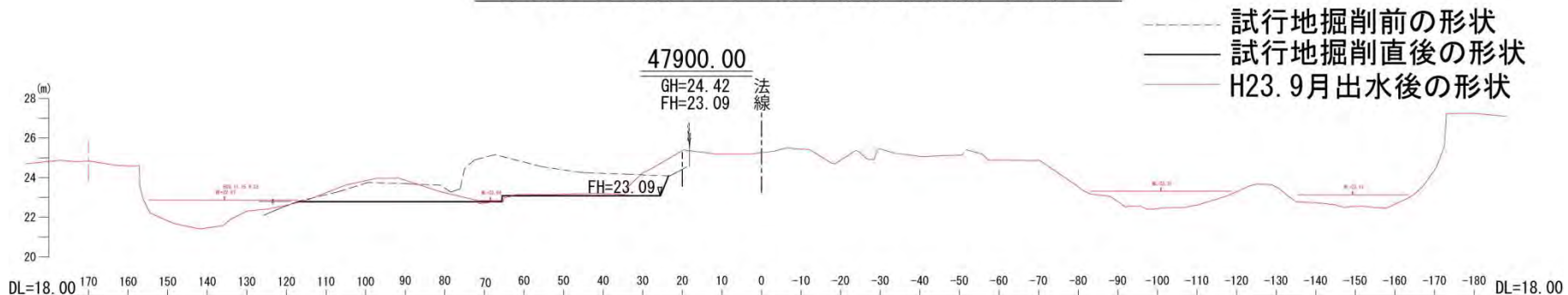
・中洲樹林を伐採し、礫河原が継続して維持できるかどうかモニタリングする。

調査項目:・河床形状等(河床高、河床材料等)、植生の進入状況。

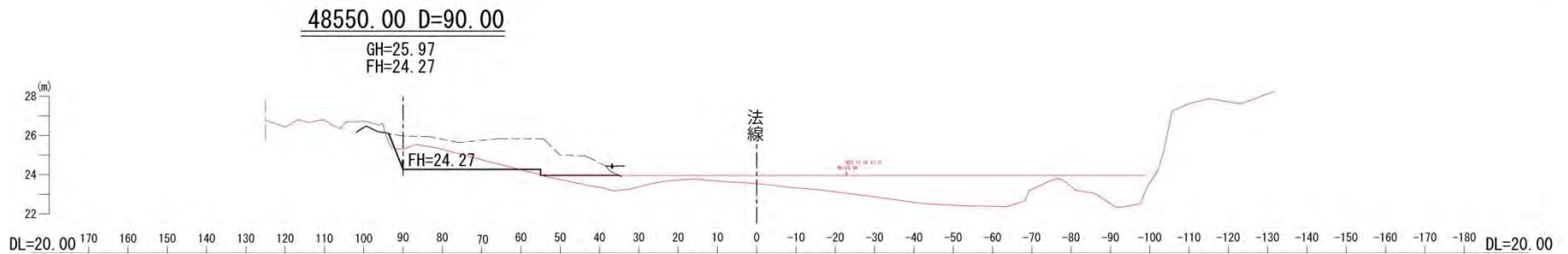
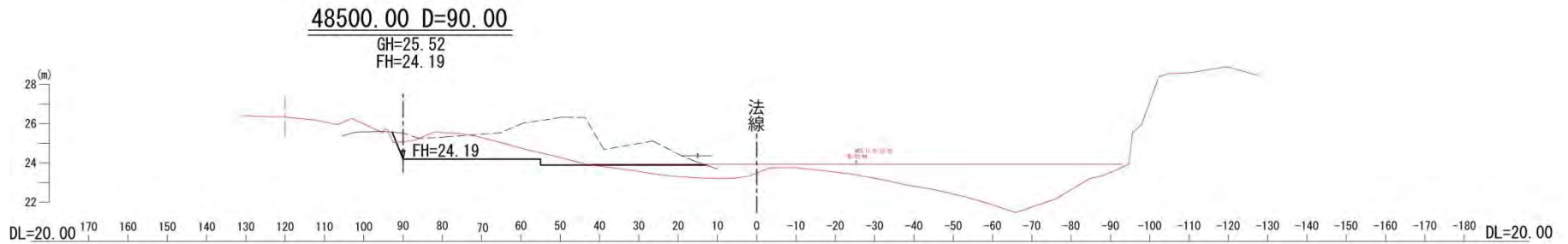
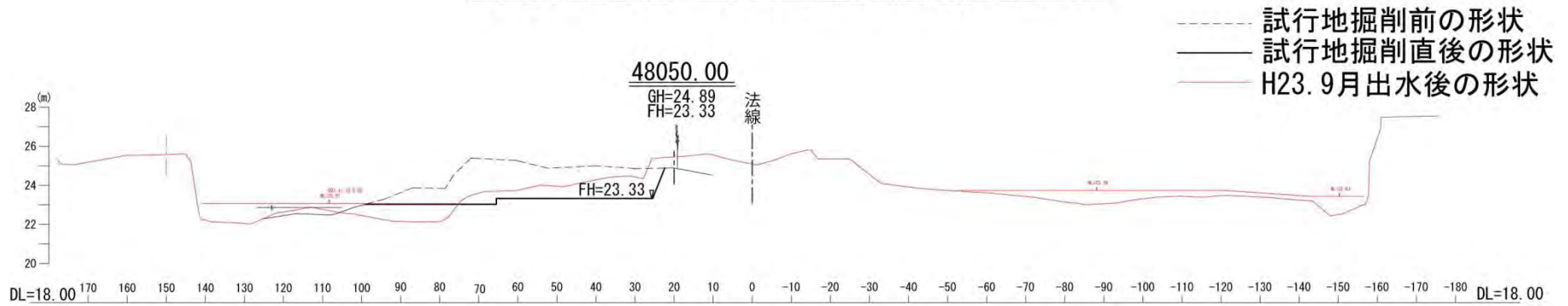
現状:・掘削高さを「平水位」と「平水位-0.3m」で変えて実施したが、9月に比較的大きな規模の出水があり、掘削後の河床形状は大きく変化し、掘削高さを変えた影響は見られなかった。また、局所的な施工だったことも影響し堆積が見られる。

・礫河原は形成されたが、植生の進入状況なども含めて、引き続きモニタリングを行う。

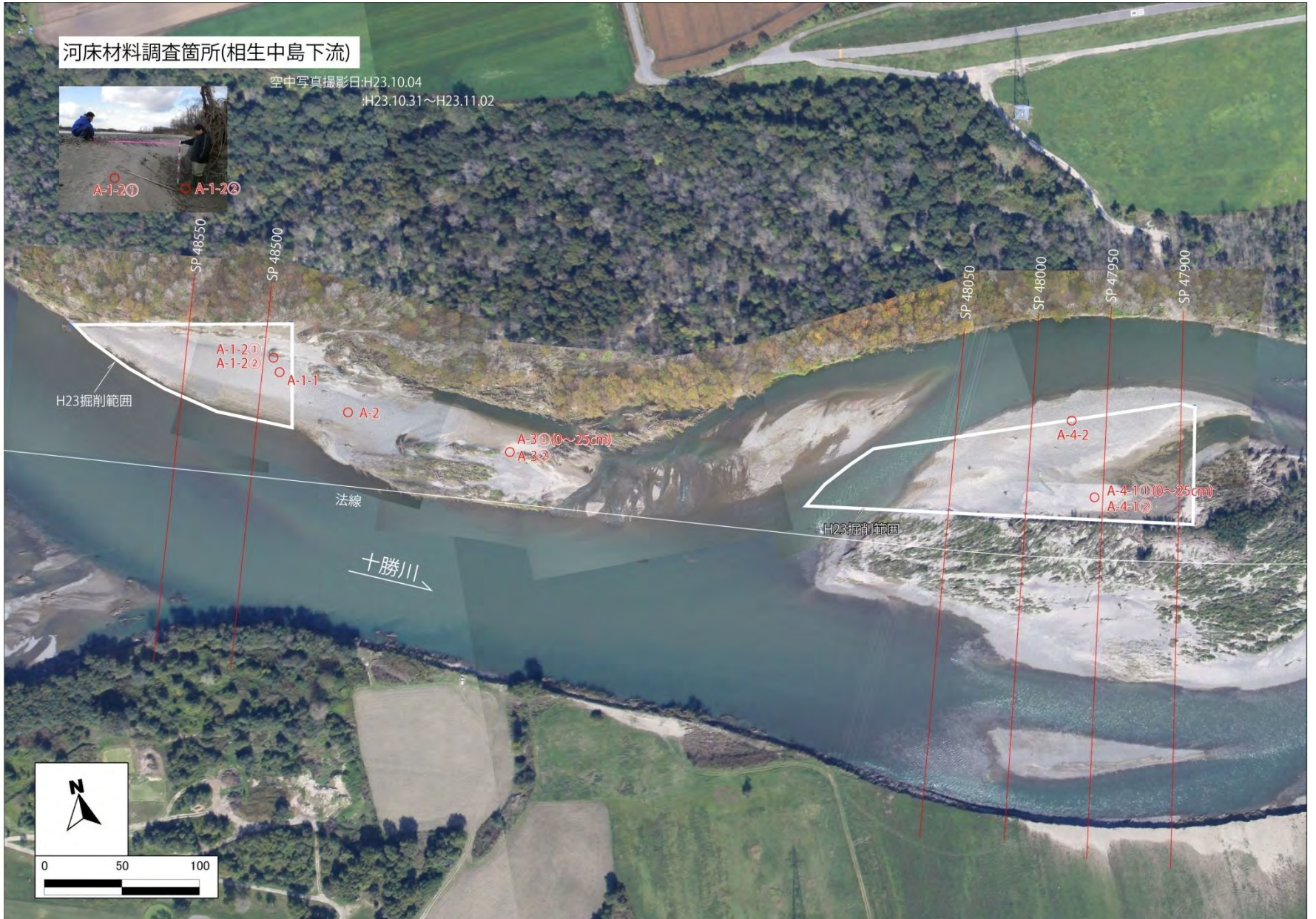
試行地(相生中島下流)横断図(1/2)



試行地(相生中島下流)横断図(2/2)

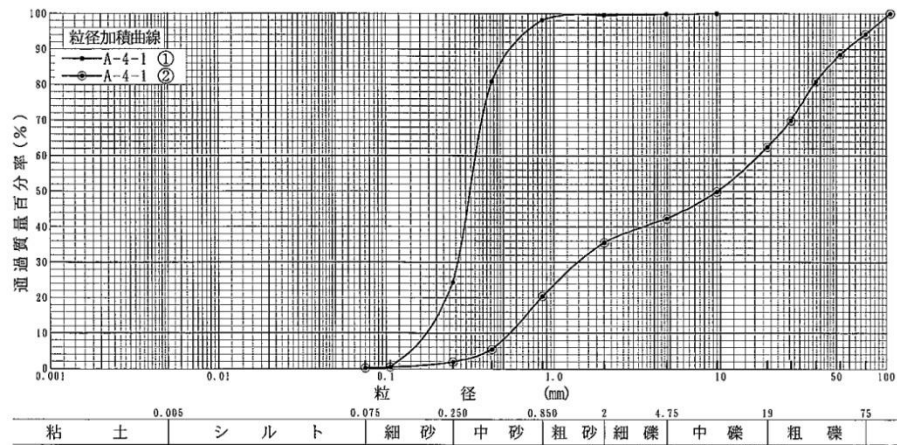
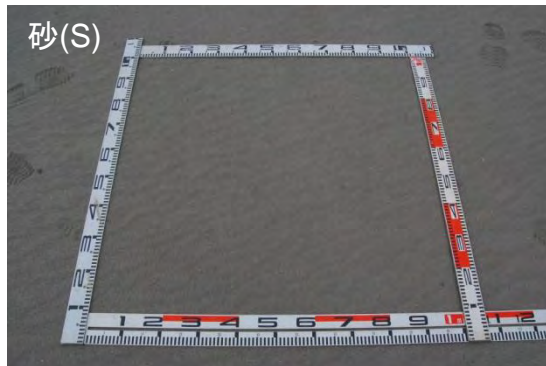


河床材料(相生中島下流)



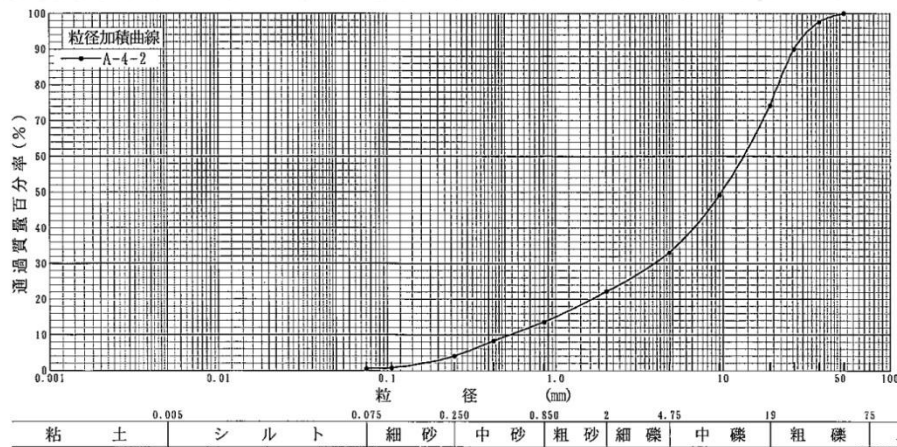
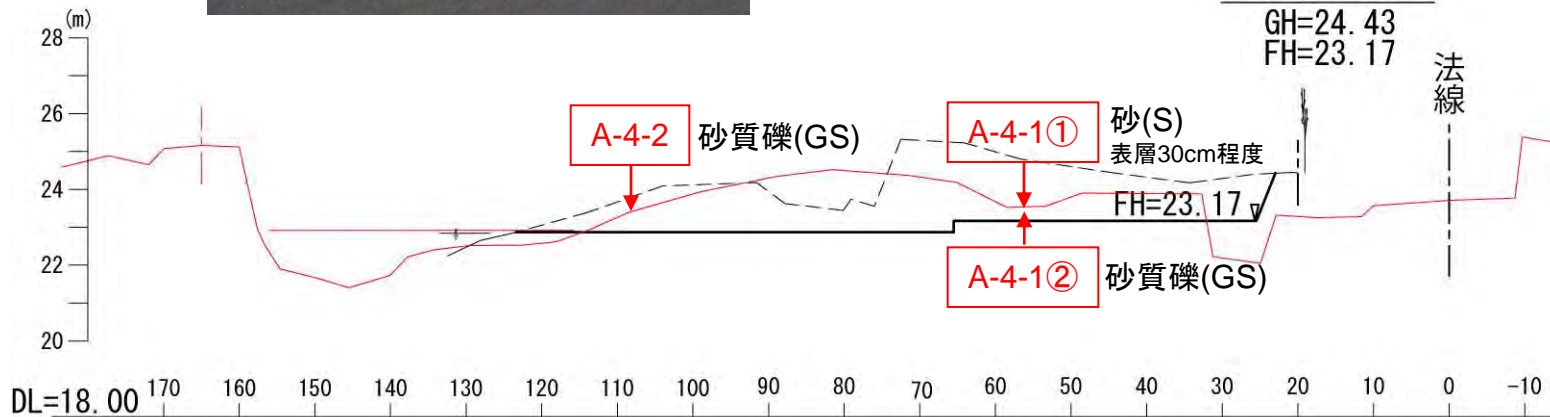
河床材料 (相生中島下流)

(H23年11月調査)



47950.00

GH=24.43
FH=23.17



試行地掘削後の状況(十勝川温泉下流)

施工前(H22撮影)



施工後・出水後(H23.11.02撮影)



目的:・河岸の樹木を伐採後に高さを変えて掘削し、再樹林化を防止するために浅場環境を形成。その後の環境変化をモニタリングする。

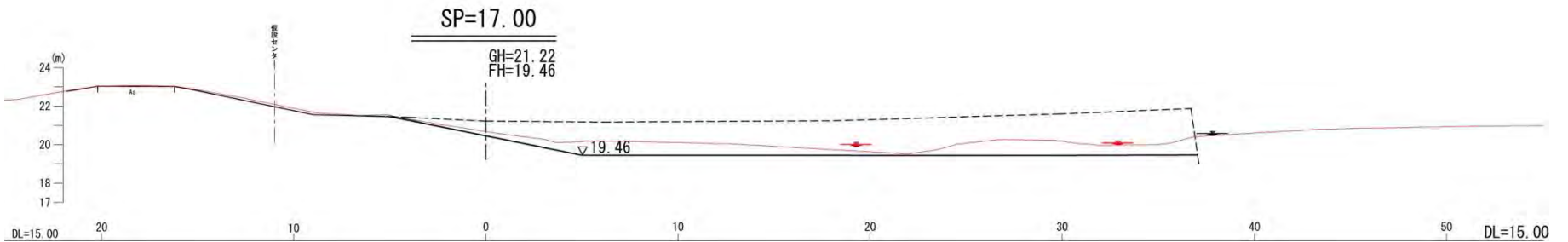
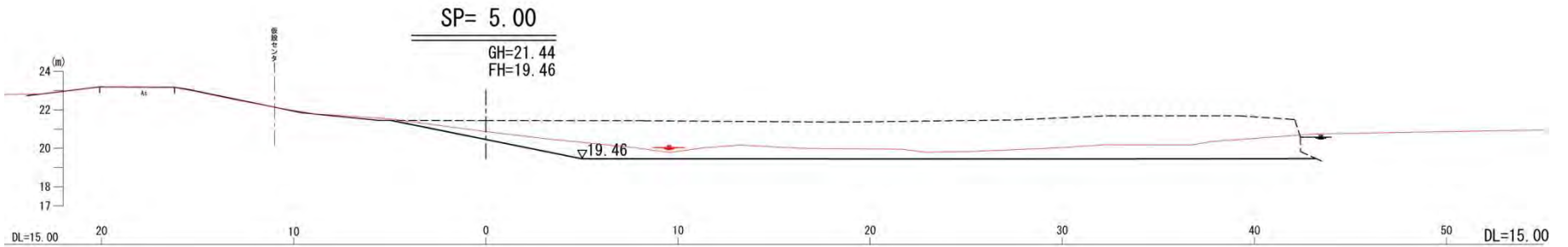
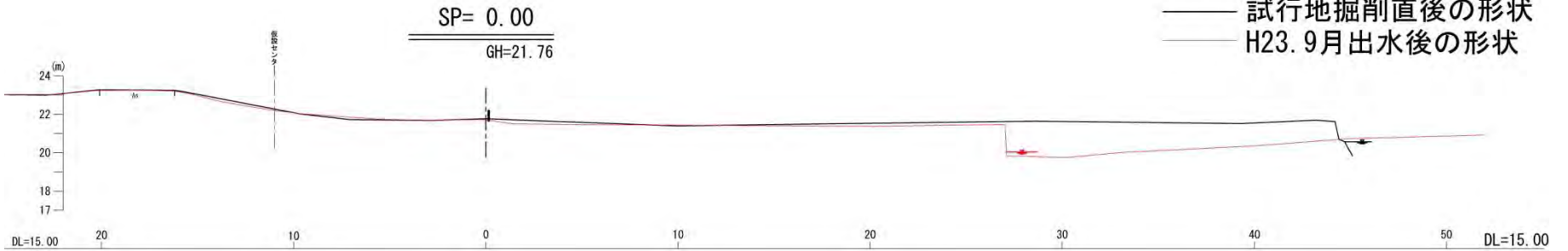
調査項目:・河床形状等(河床高、河床材料等)、植生の進入状況。

現状:・上流側の掘削高を「平水位」、下流側を「平水位-0.3m」と変えて実施したが、9月に比較的大きな規模の出水があり、下流側で若干堆積が見られた。

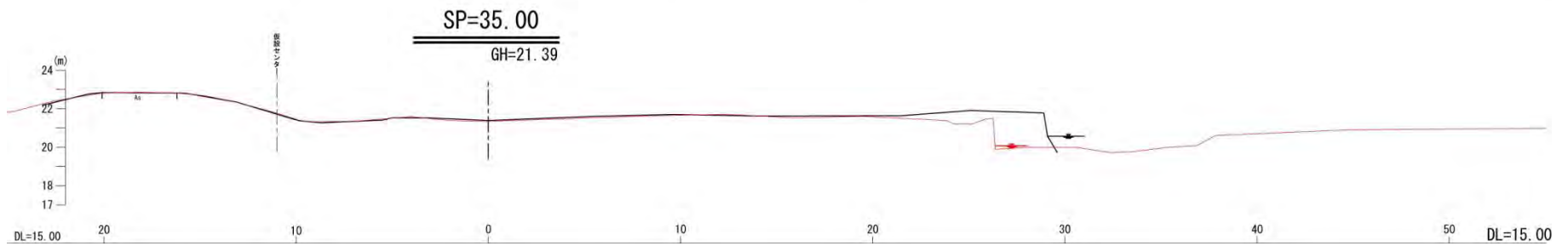
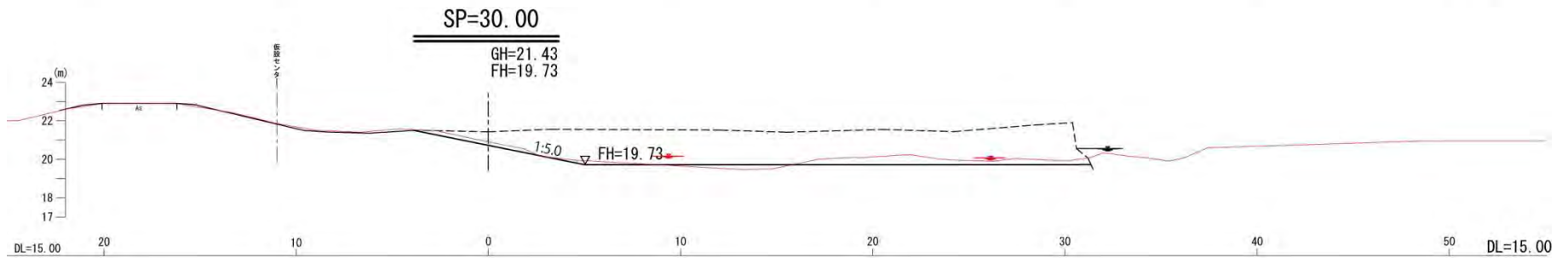
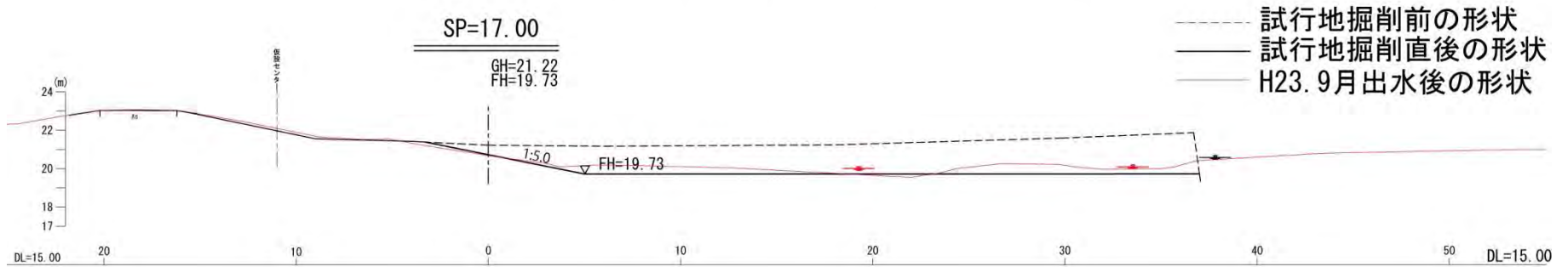
- ・試行地の前面に砂洲が形成され、試行地内に流入する水量は減少したが、浅い水域は維持されている。
- ・水域を維持するためには、ある程度深く掘削した方が良くと想定されるが、植生の進入状況なども含めて、引き続きモニタリングを行う。

試行地(十勝川温泉下流)横断図(1/2)

- 試行地掘削前の形状
- 試行地掘削直後の形状
- H23. 9月出水後の形状



試行地(十勝川温泉下流)横断図(2/2)



河床材料 (十勝川温泉下流)



河床材料 (十勝川温泉下流)

(H23年11月調査)

